

岩手県の漁業者の暮らしに対する東日本大震災の影響  
 Impacts of the Great East Japan Earthquake and Tsunami  
 on livelihoods of fishermen in Iwate Prefecture, Japan

○池田菜穂・南正昭・多々納裕一

○Naho IKEDA, Masaaki MINAMI, Hirokazu TATANO

We conducted a preliminary field research on livelihoods of fishermen in the coastal area of Iwate Prefecture, which was hit by the Great East Japan Earthquake and Tsunami in March 2011. Our aim is to contribute in discussions on the recovery process of the area. In September 2011, Ikeda visited villages in Miyako City by local buses and on foot. Field observations and interviews with local residents revealed that many facilities of fishery owned by each household as well as fishermen's cooperative were damaged by the disaster. Fishermen's statements on their works suggested that the form of "family business" is the foundation of their fishery. We have the impression that this feature is deeply related to the essence of the culture of fishery.

### 1. はじめに

東日本大震災の津波により被災した岩手県沿岸部地域の復興過程に関する議論への貢献を目的として、地域の基幹産業である、漁業に従事する人々の暮らしに関する予察的な現地調査を実施した。

### 2. 調査地と調査方法

岩手県内陸部の中心都市、盛岡からのアクセスのよい宮古市を予察調査の対象地域に選定した。2011年9月8～20日に市内の集落を訪ね歩き、そこで出会った住民（漁業者以外も含む）に話を聞いた。話の内容は東日本大震災による被災後の生活状況が中心だが、被災前から数十年前までの昔の生活についても話して頂けたケースもあった。

宮古市に3つある漁業協同組合（以下、漁協）の管轄地区のうち重茂（おもえ）地区では漁協職員にも聞取調査に協力頂き、詳しい調査ができた。

### 3. 宮古市沿岸部の3つの地区の特徴

市沿岸部は各漁協に属する3地区に分かれている。このうち宮古・田老地区の集落の多くは、岩手県沿岸部を南北に走る国道45号沿いに位置している。市内の企業等に勤務する住民もいて、全世帯に占める漁業者世帯の割合は後述する重茂地区と比較すると少ないようだ。一方、重茂地区は、宮古市東部の重茂半島に位置し、幹線道路からのアクセスは他の2地区に比べて長い。全住民世帯の約9割が漁業を営んでおり、地域社会における

漁協の役割や存在感が大きいという特徴がある。

### 4. 東日本大震災による漁業者の被災状況

宮古市内3地区での観察や聞取調査から、漁港の復旧工事は順番待ちの状態であることがわかり、全ての漁港において工事が完了するまでには長い年月を要することが予想された。また、重茂地区での漁協職員からの聞取調査によれば、同地区では漁協が所有する種苗生産施設や集荷所、加工場、そのほか多くの施設・設備が被災した。

漁業者の各世帯の所有財産の被害については、重茂地区での調査から、住居や漁船に留まらず、数多くの漁具を収納していた倉庫や、高価な加工設備が流失したことによる経済的損失が大きかったであろうという印象を受けた。

### 5. 重茂地区における被災前の漁業者の暮らし

岩手県の漁業関係者の話によれば、重茂漁協は県内24漁協のなかで経営成績が大変優れている。同地区で被災を免れた集落では、大きな住宅が多く見られ、その客間の神棚も大変に立派であり、漁業者世帯の繁栄ぶりが感じられた。漁業は家族経営を基本とし、それを漁協が支える形で発展してきた。「漁業のおもしろさ」に関係する住民の話から、漁業文化の本質は漁業が基本的に家族経営で行われることと深い関係があるという印象を受けた。復興過程においてもこのことに対する留意が求められると考えている。